

		○ 9 工事の記録 (1.2.4) ○ 10 設計図CADデータの貸与 ○ 11 施工管理体制 (1.3.1)	沖縄県土木建築部工事関係標準様式を用いる。 本工事では発注者から受注者に對し設計図CADデータを貸与する。なお、貸与されたCADデータを本工事における施工図又は完成図の作成のため以外に使用してはならない。 (1) 工事請負代金額が4,500万円以上(建築一式工事の場合9,000万円以上)の工事については、主任技術者又は監理技術者を現場ごとに専任で配置する。なお、専任を要しない期間は、次のとおりとする。 ア 現場施工に着手するまでの期間 ・ 請負契約の締結の日の翌日から令和 年 月 日までの期間 については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。 ※ 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間(現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間)については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督員との打合せにおいて定める。 イ 検査終了後の期間 工事完成後、検査が終了し(発注者の都合により検査が遅延した場合を除く)、事務手続、後片付け等のみが残っている契約工期中の期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。 (2) 主任技術者及び監理技術者の雇用関係について ア 建設業法第26条の規定により、工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者は、受注者と入札執行日より前に3か月以上の雇用関係が成立していなければならない。 イ 受注者は、着手届と共に工事現場に専任で配置する主任技術者又は監理技術者の雇用関係を証明する書類(監理技術者資格者証、市区町村が作成する住民税特別徴収税額通知書、健康保険・厚生年金被保険者標準報酬決定通知書、所属会社の雇用証明書又はこれらに準ずる資料等の写し)を提出しなければならない。 (1) 主任技術者及び監理技術者の資格については、入札公告、現場説明資料等による。なお、入札公告、現場説明資料等で示されていない場合、主任技術者の資格は、以下による。 ※ 資格の区分1 次のイ又はロに掲げるもの イ 建設業法(昭和24年法律第100号)による技術検定(以下「技術検定」という。)のうち、1級の管工事施工管理の検定種目に合格した者 ロ 技術士法(昭和56年法律第25号)による第二次試験のうち、技術部門を機械部門、上下水道部門又は衛生工學部門に合格した者 ・ 資格の区分2 次のイ又はロに掲げるもの イ 技術検定のうち、1級又は2級の管工事施工管理の検定種目に合格した者 ロ 資格の区分1のロに掲げる者 ・ 資格の区分3 次のイ又はロに掲げるもの イ 建設業法第7条第2号イ又はロに定める実務経験を有する者 ロ 昭和47年建設省告示第352号により、上記と同等以上の知識及び技術、技能を有すると認定された者 (2) 発注者へ資格を証明する資料を提出すること。	○ 18 発生材の処理等 (1.3.9)	(2) 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は原則として「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付け建設省経機発第249号、最終改正平成22年3月18日付け国総施設第291号)」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。 一般工用建設機械(ディーゼルエンジン出力7.5～260kW) ア バックホウ イ 車輪式トラクタショベル ウ ブルドーザ エ 発動発電機 カ 空気圧縮機 コ 油圧ユニット(基礎工用機械で独立したもの) キ ローラ類 ク ホイールクレーン 適切、安全な工事の実施のため、必要に応じ事前に施工調査を行う。(建物や周辺の状況等調査、残存物品調査、PCB、アスベスト等有害物質調査など) (1) マニフェストシステムを採用し、適正な収集、運搬及び処分を行う。<table><tr><td>発生材の種類及び処分方法</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>引渡しを要するもの</td><td>・ 無</td><td>・ 有(図示)</td><td></td></tr><tr><td>特別管理産業廃棄物</td><td>・ 無</td><td>・ 有(図示)</td><td>※現場調査を行う</td></tr><tr><td>再利用を図るもの</td><td>・ 無</td><td>・ 有(図示)</td><td></td></tr></table> (2) 本工事により発生する建設廃棄物のうち、県内の最終処分場に搬入する産業廃棄物は、産業廃棄物の処理に係る税(沖縄県産業廃棄物税)が課税されるので、適正に処理すること。 (3) 建設リサイクルの推進について 受注者は、該当する建設資材がある場合、工事着手前に「建設副産物情報交換システム」(以下「COBRIS」という。))により作成した、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を監督職員に提出しなければならない。 また、受注者は、その計画書に従い建設廃棄物が適切に処理されたことを確認し、工事完成時にCOBRISにより作成した、「再資源化報告書」、「再生資源利用実施書」、「再生資源利用促進実施書」を監督職員に提出しなければならない。 (4) 本工事で発生する建設廃棄物を現場外に搬出する場合、以下のいずれかとする。 ただし、島内、もしくは建設発生木材(伐採木を含む)・建設汚泥については工事現場から50km以内以下に以下の施設がない場合は、この限りではない。 ①搬出した廃棄物の種類を原材料とするゆいぐる材を製造している再資源化施設へ搬出 ②搬出した廃棄物の種類を原材料とするゆいぐる材の製造を行っていないが、そこで再資源化された後にゆいぐる材製造業者へ出荷している施設へ搬出 (5) 本工事における再資源化に要する費用(運搬費を含む処分費)は、前に掲げる施設のうち、受入条件の合う中から運搬費と処分費(平日受入費用)の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用の変更は行わない。 (6) アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水及び粉体の取扱基準について ア 舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する濁水及び粉体(以下、「廃棄物」という。))については、廃棄物吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。回収された廃棄物については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については変更契約できるものとする。 「適正に処理」とは、「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者(請負業者)が産業廃棄物の処理を委託する際、適正処理のために必要な廃棄物情報(成分性状等)を処理業者に提供することが必要である。なお、工事に際して特別な混入物が無ければ、下記HPIに掲載されている「濁水及び粉体の分析結果」を用いても差し支えない。 http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kankyo/seibi/sangyo/asufaruto.html なお、受注者は、廃棄物の処理に係る産業廃棄物管理票(マニフェスト)について、監督職員から請求があった場合は提示しなければならない。 イ 発生する濁水(汚濁)に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する濁水の取扱基準について(通知)(平成24年3月28日付け技第1257号)」に基づき、適正に処理すること。 ウ 発生する粉体に関しては「アスファルト舗装版切断に伴い発生する廃棄物の取扱いについて(通知)(平成25年1月17日付け技第942号)」に基づき、適正に処理すること。	発生材の種類及び処分方法				引渡しを要するもの	・ 無	・ 有(図示)		特別管理産業廃棄物	・ 無	・ 有(図示)	※現場調査を行う	再利用を図るもの	・ 無	・ 有(図示)	
発生材の種類及び処分方法																					
引渡しを要するもの	・ 無	・ 有(図示)																			
特別管理産業廃棄物	・ 無	・ 有(図示)	※現場調査を行う																		
再利用を図るもの	・ 無	・ 有(図示)																			

(7) 撤去前に内容物(燃料、冷媒、吸収液、廃油等)の回収を要する機器、配管等がある場合、撤去部に有害物質を含む材料(アスベスト、鉛、PCB等)が使用されている場合は、監督員と協議し、関係法令により適切に処置する。

工事名称	沖縄コンベンションセンター舞合機械設備更新工事(R8)	工事年度	令和8年度
工事場所	沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1	図面名称	特記仕様書(機械設備)～2
発注機関	沖縄県文化観光スポーツ部MICE推進課	縮尺	
概要		図面番号	M- 02
検印	管理建築士	設計	製図
		設計者	名称
			資格者氏名
			登録番号
			所在地

別表－1（関連工事との取り扱い）

工事内容		本工事	別途工事	
		機械	電気	建築
機器の基礎	屋内設置(架台、アンカーボルトを除く)	・		※
	屋上設置(架台、アンカーボルトを除く)	・		※
	屋外設置(架台、アンカーボルトを除く)	※	・	
	架台、アンカーボルト	※	・	
貫通スリーブ (はり、床、壁)	スリーブ	※		
	補強鉄筋	・		※
	スリーブの穴埋め	※	・	
箱入れ (はり、床、壁)	箱入れ	※	・	
	補強鉄筋	・		※
	型枠の穴埋め	※	・	
天井、壁の切り込み	墨出し	※	・	
	下地組み、ボード類切り込み (吹出口、吸込口、消火栓等)	・		※
開口部補強	軽量鉄骨天井、壁下地	・		※
インサート	インサート	※		・
外気取付ガ拉里	ダクト、チャンバーの接続用フランジを含む	・		※
換気扇の取付枠	換気扇の取付枠	※	・	
電気配管配線	機器付属の制御盤及び操作盤以降の配管、配線	※	・	
	機器付属の制御盤及び操作盤への電源供給配管、配線	・		※
	天井吊り機器(空調機、空調換気扇)の本体と操作スイッチ間の配管	・		※
	上記の配線	※	・	
	パッケージ型空気調和機などで屋内機と屋外機との間の配管	・		※
	上記の配線	※	・	
	電極棒及びフROOTスイッチの本体	※	・	
	上記の配管、配線	・		※
自動制御	電気配管	・	・	
	電気配線	・	・	
	電源供給	・		※
浄化槽	コンクリート躯体	・	・	
	基礎コンクリート	※	・	
	基礎杭	・	・	
	根切り、埋戻し	※	・	
	残土処理	※	・	
	防護柵	・	・	
	土止め工事	・	・	
	保護砂	・	・	
	湧水処理	・	・	
	送風機室(換気用送風機を含む)	・	・	
	操作盤までの1次側電気工事	・		※
	操作盤以降の2次側電気工事	※	・	
樋	ルーフドレイン及び立て樋	・		※
	立て樋接続用埋設横引管	・		※
流し類	台所流し台、手洗い流し台(SUS人研ぎ共)	・		※
化粧鏡	上記の配管接続	※	・	
	衛生陶器メーカー規格外の物	※	・	
カウンター	はめ込洗面器のカウンター	※	・	
身障者用手すり	衛生器具回り	※	・	
	その他手すり	・		※
※配線は接続を含むものとする。				

別表－2（管材）

用途	施工箇所	管材
冷温水管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
冷却水管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
蒸気管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
高温水管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
油管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
ブライン管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
冷媒管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
給水管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
給湯管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
消火管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
排水管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
通気管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
ガス管	屋内一般配管	
	機械室・便所配管	
	屋外配管(架空、暗渠内、共同構内)	
	地中配管	
特記事項		
※ 冷媒管に断熱材被覆銅管を使用した場合の断熱材の厚さは、液管10mm以上、ガス管20mm以上とする。		
※		

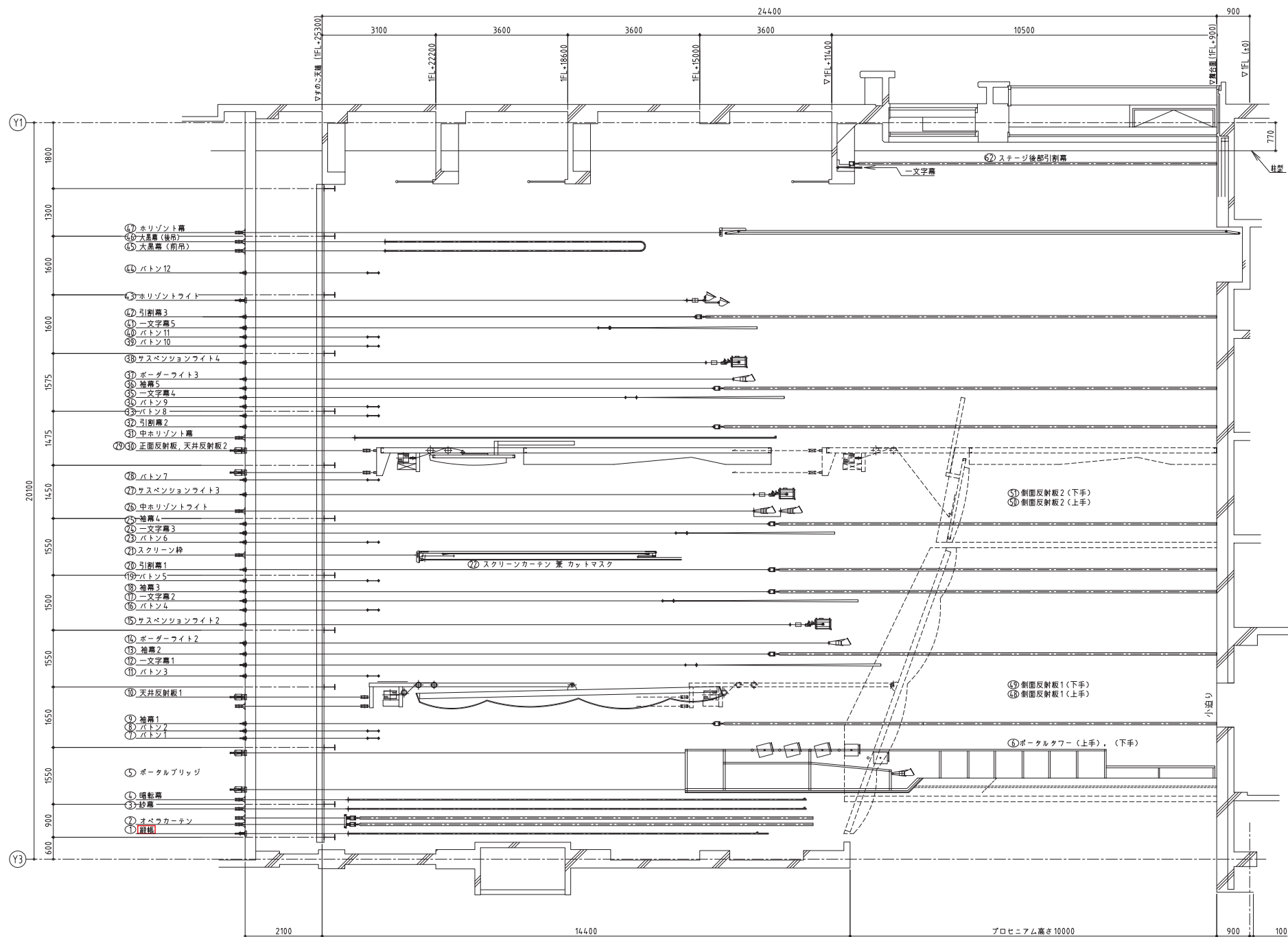
工事名称	沖縄コンベンションセンター舞合機構設備更新工事(R8)	工事年度	令和8年度			
工事場所	沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1	図面名称	特記仕様書(機械設備)－4			
発注機関	沖縄県文化観光スポーツ部MICE推進課	縮尺				
概要			図面番号	M- 04		
検印	管理建築士	設計	製図	設計者	名称	
					資格者氏名	
					登録番号	
					所在地	

工事概要	工事名称	沖縄コンベンションセンター
	工事場所	沖縄県宜野湾市興志喜4-3-1
	工事内容	舞台機構設備改修工事
一般事項	適用範囲	本特記仕様書は、上記の工事概要における工事内容適用する。
	適用規準類	本特記仕様書を適用するにあたって、建築基準法、労働安全衛生法等の法令・規則による他、必要に応じて、以下に定める指針、規準、規格等を適用する。 懸垂物安全指針・同解説（日本建築センター） 建築設備前装設計・施工指針（日本建築センター） JATET-M-6030-4 吊物機構安全指針・同解説（劇場演出空間技術協会） 日本産業規格（JIS）
	機材	機材等の指定がある場合は、該当する機材を使用又は同等以上のものを使用すること。
	現場管理	本改修工事は労働安全衛生法等の関係法令の規定により施工し、工事工程は監督職員と打合わせの上、工程表を作成し、監督職員の承諾を受け、契約期間内に完全に施工すること。
	養生その他	工事を施工するに当たり既設建物及び既設設備が損傷・汚損の恐れがある場合は養生し、十分注意し施工すること。万一損傷・汚損した場合は、速やかに適切な処置をとると共に、監督職員に報告し、指示がある場合はこれに従うこと。なお、これに要する費用は請負者の負担とする。舞台面については、工事部外者が立ち入ることの出来ないように安全柵、表示を行うこと。
	既設設備の確認	工事施工者は工事着手に当り、事前に現場調査を行うこと。設計図書とのくい違い及び工事範囲内に記載されていない内容については、着手前にその内容について監督職員と協議を行うこと。 各設計図に記載する既設寸法等については参考寸法であるため施工前に現場実測を行い、監督職員と協議の上寸法等を決定すること。
	仮設物	材料置場、撤去材置場は、監督職員の承諾を受け、工事完了後は撤去、跡かたづけ及び清掃等を速やかに行うこと。
	発生材の処理	工事中に発生した撤去材、残材等は関係法令に準拠し、適正に処理すること。
	契約不適合	工事目的物引渡し後、1年以内に契約不適合がある場合は、請負者の負担にて速やかに補修するものとする。
	施工図面	施工時に提出のこと。
	溶接作業等	現場において火花を発生する作業がある場合は、監督職員に報告すること。作業は周辺の養生を行い、安全を確認した上で行うこと。

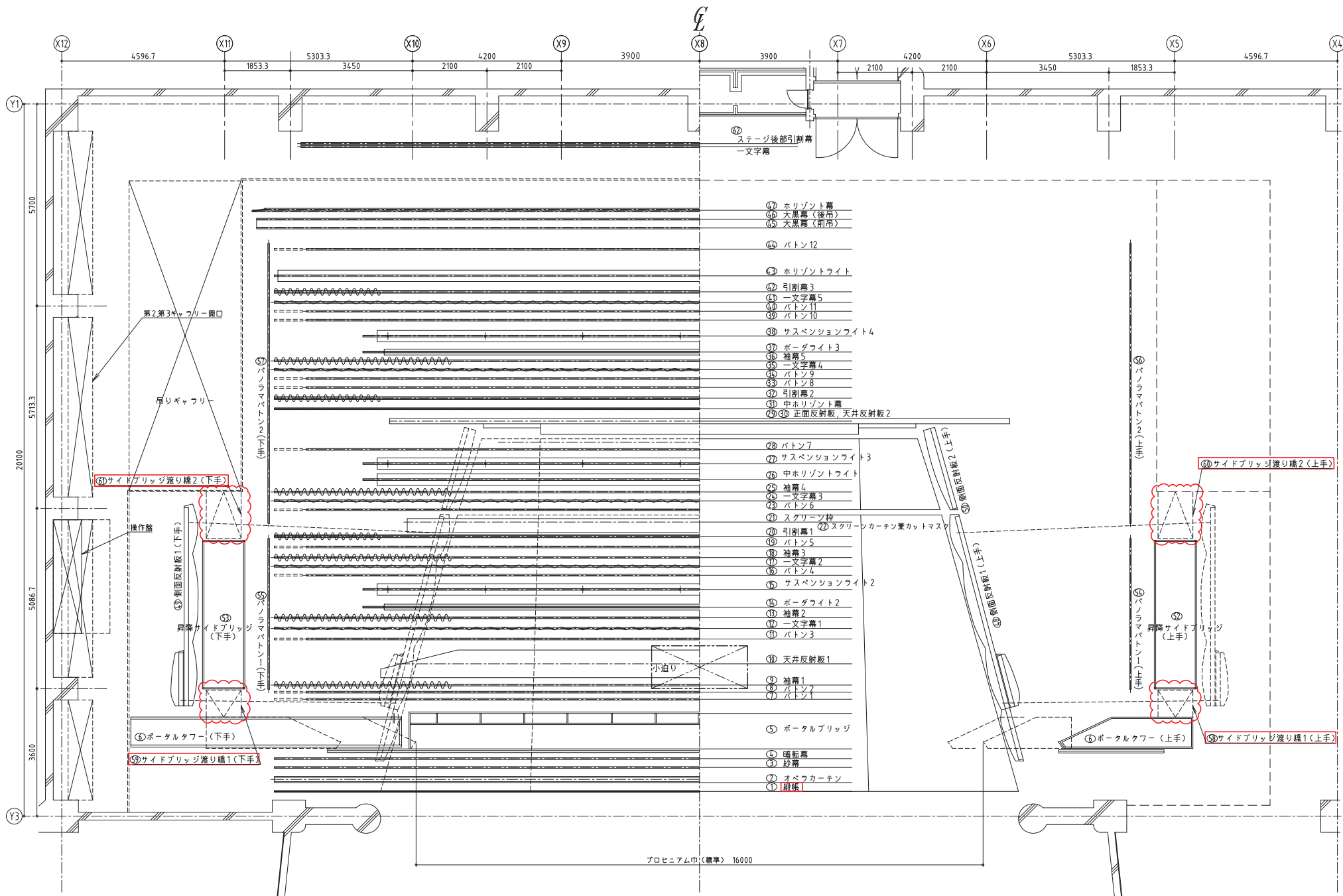
機器性能	電動機（モータ）	機構の用途、荷重、昇降（移動）速度、起動停止制御、速度制御、周囲環境等に適した形式、容量のものを選定する。
	減速機	荷重、減速比、使用時の回転数（変速式にあっては回転数範囲）、効率、逆転効率等の適したものを選定する。
	ブレーキ	機構の荷重、速度、制動時の滑り等に適したものであり、電動機の起動、停止と連携して動作すること。ブレーキの保持はスプリングによるなど、動力を必要としない方式とし、制止トルクは停止状態を保持するために必要なトルクの1.5倍以上とする。
	巻取ドラム	巻溝は使用するワイヤロープに適した形状とし、巻取ドラムの直径は使用するワイヤロープの公称径またはロープ径の30倍以上とする。巻取ドラムの巻溝と巻取るワイヤロープとのなす角度は4度以下とする。
	機械台	十分な強度の部材を組合せた上に、電動機・減速機・巻取ドラム等の駆動機等を精密に組立て、複数のボルト、又はアンカーボルトにて固定する。
	ワイヤロープ	JISマーク表示品またはこれと同等の製品とする。ワイヤロープに加わる荷重は、定格積載の機構静止時においてJIS破断荷重の1/10以下とする。ワイヤロープとボタンその他の機構機器等との接続は適切な取付金物等を用い該部は一本ごとに緊結する。
	リミットスイッチ	動力を用いた機構もしくは電気的な確認を必要とする機構において、使用条件に応じ、プッシュ型、ローレバー型等のリミットスイッチを、カム、げり金具、又はフレイム本体等で動作させ、用途上必要な停止位置、動作範囲の限度、または確認位置で、自動的に電気回路の開閉が行えるものとする。 必要に応じ、動作範囲を規定するリミットスイッチの外側に、ファイナルスイッチを設け、強制停止する制御回路を設ける。
	塗装	フレーム、マシンベース、架台等の塗装 工場において加工または組立を終了した部材は、社内検査終了後、塗装を施す。塗装仕様は製作者の標準仕様による。但し、現場溶接部のまわりは、工場において塗装せず、現場溶接後、同等の塗装をする。 刷毛塗りでは、刷毛目を揃え、塗り落とし、たまり、あわ等の欠点を生じないように一様に塗る。 吹き付け塗装では、吹きむらのないように塗装する。 駆動マシン、減速機、ブレーキ、軸受等の塗装 塗装及び色調は製作者の標準仕様による。

吊物機構仕様

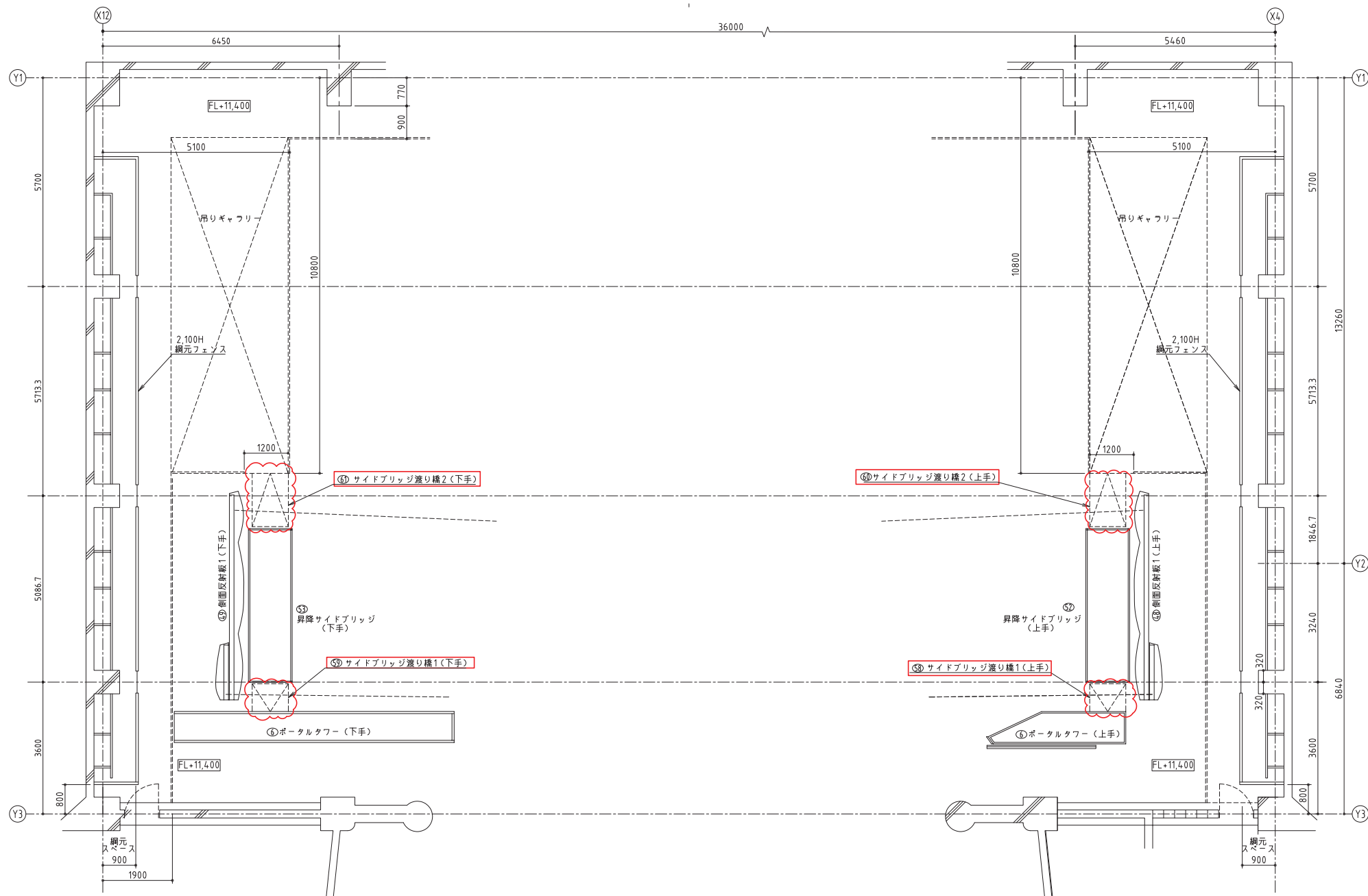
No.	装置名称	寸法 (mm)	機構 方式	駆動方式	固定質量 (kg)	積載質量 (kg)	速度 (m/min)	ロープ径 (mm)	吊 座	動力 (kW)	制御方式	レベル 設定	備考	更新項目				
														マシ ン 一 式	ワイヤ ロー プ 一 式	リミッ ト 一 式	落下防止 金具	絞 帳 裏 地
1	絞帳	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	150	1,500	15~60	8	10	3.7	INV	—	—	—	—	—	○	○
2	オペウカーテン	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	900	450	30~60	6	20	2.2	INV	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	電動ワイヤ巻取り式	—	—	15~45	4	—	0.75	INV	—	—	—	—	—	—	—
			絞リ	電動ワイヤ巻取り式	20	180	15~100	6メッキ	2	5.5	INV	—	—	—	—	—	—	—
3	紗幕	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	115	400	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
4	暗転幕	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	100	400	5~50	6	10	2.2	INV	—	—	—	—	—	—	—
5	ポータルブリッジ	W21,000×H11,500	昇降	電動ワイヤトクション式	6,600	2,000	6	12	14	3.7	直入始動	○	ボーダーライト1. サスペンションライト1 共吊り	—	—	—	—	—
6	ポータルタワー（上手）	W4,000×H10,500	走行	電動チェーン式	—	—	3	—	—	0.75	直入始動	—	吊りフレーム 固定パネル付	—	—	—	—	—
7	ポータルタワー（下手）	W4,000×H10,500	走行	電動チェーン式	—	—	3	—	—	0.75	直入始動	—	吊りフレーム 固定パネル付	—	—	—	—	—
8	バトン1	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
9	バトン2	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
9	浴幕1	5,000×2	昇降	電動ワイヤトクション式	180	400	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	天井反射板1	W18,000×H8,222	昇降	電動ワイヤトクション式	7,000	—	3	12	14	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			変角	電動ワイヤ巻取り式	800	—	1	6	7	0.75	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
11	バトン3	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
12	一文字幕1	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
13	浴幕2	5,000×2	昇降	電動ワイヤトクション式	180	400	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	ボーダーライト2	19,000	昇降	電動ワイヤトクション式	70	400	10	6	8	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
15	サスペンションライト2	19,000	昇降	電動ワイヤトクション式	70	700	10	6	8	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
16	バトン4	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
17	一文字幕2	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
18	浴幕3	5,000×2	昇降	電動ワイヤトクション式	180	400	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19	バトン5	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
20	引割幕1	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	290	380	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	スクリーン枠	W16,500×H6,800	昇降	電動ワイヤトクション式	950	200	10	6	7	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
22	スクリーンカーテン兼カットマスク	W8,550×H6,700×2	開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	スクリーン枠に併設	—	—	—	—	—
23	バトン6	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
24	一文字幕3	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
25	浴幕4	5,000×2	昇降	電動ワイヤトクション式	180	400	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26	中ホリゾンライト	19,000	昇降	電動ワイヤトクション式	70	800	10	6	8	2.2	直入始動	○	ボーダライト共吊り	—	—	—	—	—
27	サスペンションライト3	19,000	昇降	電動ワイヤトクション式	70	700	10	6	8	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
28	バトン7	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
29	正面反射板	W17,500×H10,800	昇降	電動ワイヤトクション式	9,100	—	3	12	16	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
30	天井反射板2	W13,580×H2,350	変角	電動ワイヤ巻取り式	1,200	—	1	6	5	0.75	直入始動	—	正面反射板に併設	—	—	—	—	—
31	中ホリゾン幕	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	100	380	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
32	引割幕2	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	290	380	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
33	バトン8	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
34	バトン9	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
35	一文字幕4	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
36	浴幕5	5,000×2	昇降	電動ワイヤトクション式	180	400	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
37	ボーダーライト3	19,000	昇降	電動ワイヤトクション式	70	400	10	6	8	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
38	サスペンションライト4	19,000	昇降	電動ワイヤトクション式	70	700	10	6	8	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
39	バトン10	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
40	バトン11	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
41	一文字幕5	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
42	引割幕3	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	290	380	30	6	10	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
43	ホリゾンライト	24,000	昇降	電動ワイヤトクション式	90	1,200	10	8	10	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
44	バトン12	22,200	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	30	6	10	2.2	直入始動	○	両端伸縮パイプ（900L）付	—	—	—	—	—
45	大量幕（前席）	25,000	昇降	電動ワイヤトクション式	200	400	10	6	10	15	直入始動	—	ニツ拵納式	—	—	—	—	—
46	大量幕（後席）	25,000	昇降	電動ワイヤ巻取り式	100	200	10	4メッキ	10	15	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
47	ホリゾン幕	W25,000×H16,000	昇降	電動ワイヤトクション式	2,100	400	10	8	10	2.2	直入始動	—	鉄骨フレーム付（下部保護パネル）	—	—	—	—	—
48	側面反射板1（上手）	W7,200×H10,000	昇降	電動ワイヤ巻取り式	2,700	—	3	12	2	3.7	直入始動	—	2：1ローピング	—	—	—	—	—
49	側面反射板1（下手）	W7,200×H10,000	昇降	電動ワイヤ巻取り式	2,700	—	3	12	2	3.7	直入始動	—	2：1ローピング	—	—	—	—	—
50	側面反射板2（上手）	W2,416×H7,664	変角	手動旋回式	700	—	—	—	—	—	—	—	正面反射板に併設	—	—	—	—	—
51	側面反射板2（下手）	W2,416×H7,664	変角	手動旋回式	700	—	—	—	—	—	—	—	正面反射板に併設	—	—	—	—	—
52	昇降サイドブリッジ（上手）	W4,250×H5,000×D1,200	昇降	電動ワイヤ巻取り式	600	400	6	8	4	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
53	昇降サイドブリッジ（下手）	W4,250×H5,000×D1,200	昇降	電動ワイヤ巻取り式	600	400	6	8	4	2.2	直入始動	○	—	—	—	—	—	—
54	バノマバトン1（上手）	4,250	昇降	電動ワイヤ巻取り式	50	400	10	6	3	15	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
55	バノマバトン1（下手）	4,250	昇降	電動ワイヤ巻取り式	50	400	10	6	3	15	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
56	バノマバトン2（上手）	7,900	昇降	電動ワイヤ巻取り式	80	400	10	6	3	15	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
57	バノマバトン2（下手）	7,900	昇降	電動ワイヤ巻取り式	80	400	10	6	3	15	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
58	サイドブリッジ廻り鏡1（上手）	1,000	変角	電動ワイヤ巻取り式	100	150	6	6	2	0.4	直入始動	—	—	○	○	○	—	—
59	サイドブリッジ廻り鏡1（下手）	1,000	変角	電動ワイヤ巻取り式	100	150	6	6	2	0.4	直入始動	—	—	○	○	○	—	—
60	サイドブリッジ廻り鏡2（上手）	1,000	変角	電動ワイヤ巻取り式	100	150	6	6	2	0.4	直入始動	—	—	○	○	○	—	—
61	サイドブリッジ廻り鏡2（下手）	1,000	変角	電動ワイヤ巻取り式	100	150	6	6	2	0.4	直入始動	—	—	○	○	○	—	—
62	ステージ後部引割幕	22,600	固定	固定形式	100	230	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
			開閉	手動引紐開閉式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
63	客席暗幕（上手）	約280m ²	絞リ	電動ワイヤ巻取り式	60	320	10	4メッキ	14	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
64	客席暗幕（下手）	約280m ²	絞リ	電動ワイヤ巻取り式	60	320	10	4メッキ	14	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
65	客席透光幕（上手）	約280m ²	絞リ	電動ワイヤ巻取り式	60	230	10	4メッキ	14	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
66	客席透光幕（下手）	約280m ²	絞リ	電動ワイヤ巻取り式	60	230	10	4メッキ	14	2.2	直入始動	—	—	—	—	—	—	—
67	特別席カーテン	W2,300×H3,600×2	昇降	電動ワイヤトクション式	10	10	—	—	—	0.04	直入始動	—	両側き 上下手 各 恰	—	—	—	—	—
68	ロールブラインド	W4,000×H1																



□は更新対象装置を示す



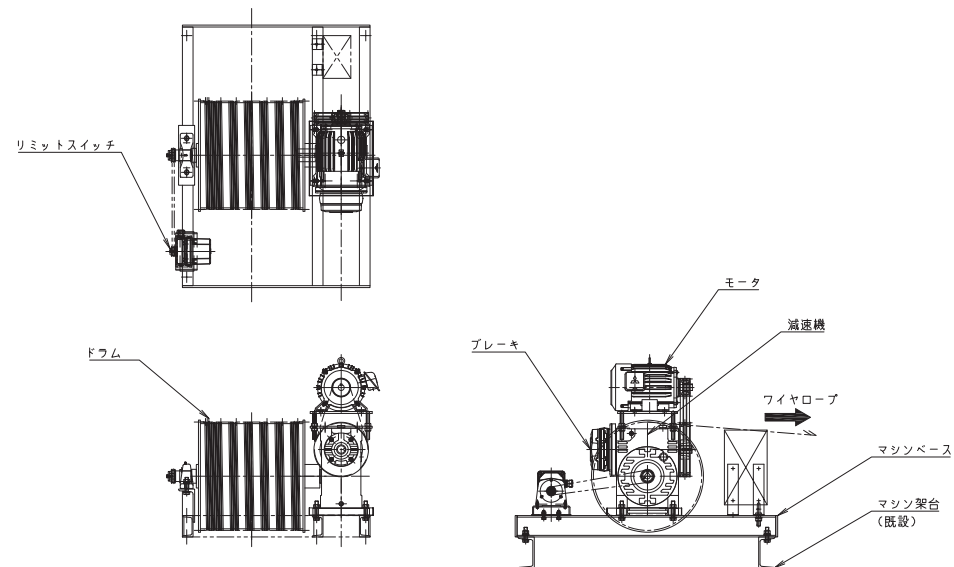
□ は更新対象装置を示す



□ は更新対象装置を示す

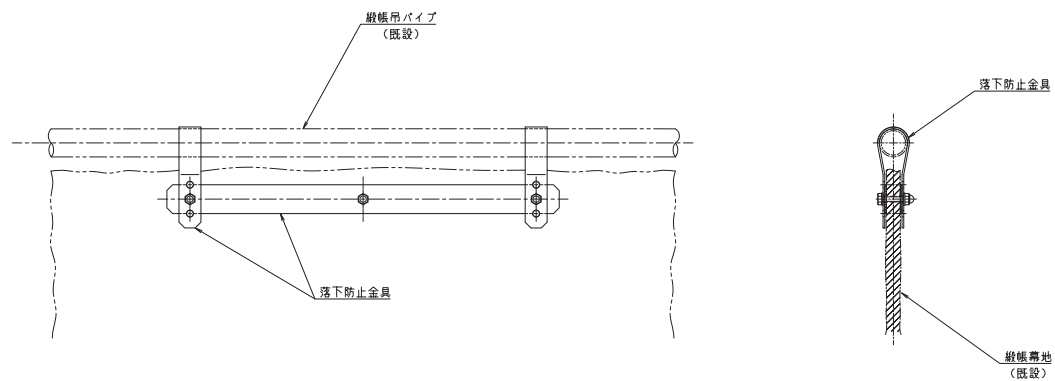
マシン

使用先：サイドブリッジ渡り橋1（上手）
 サイドブリッジ渡り橋1（下手）
 サイドブリッジ渡り橋2（上手）
 サイドブリッジ渡り橋2（下手）



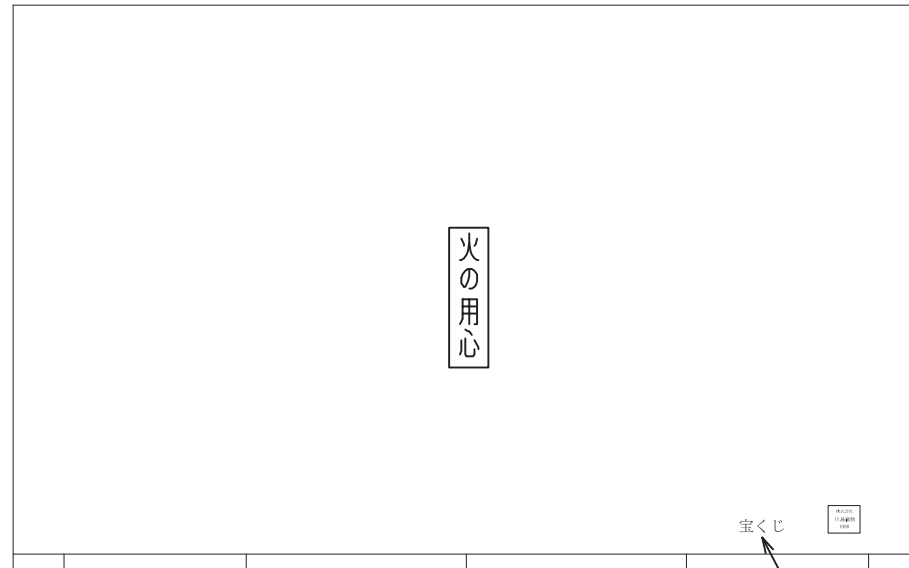
落下防止金具

使用先：織帳



※機器の大きさ・形状・配置は参考とする

緞帳 裏地 交換前

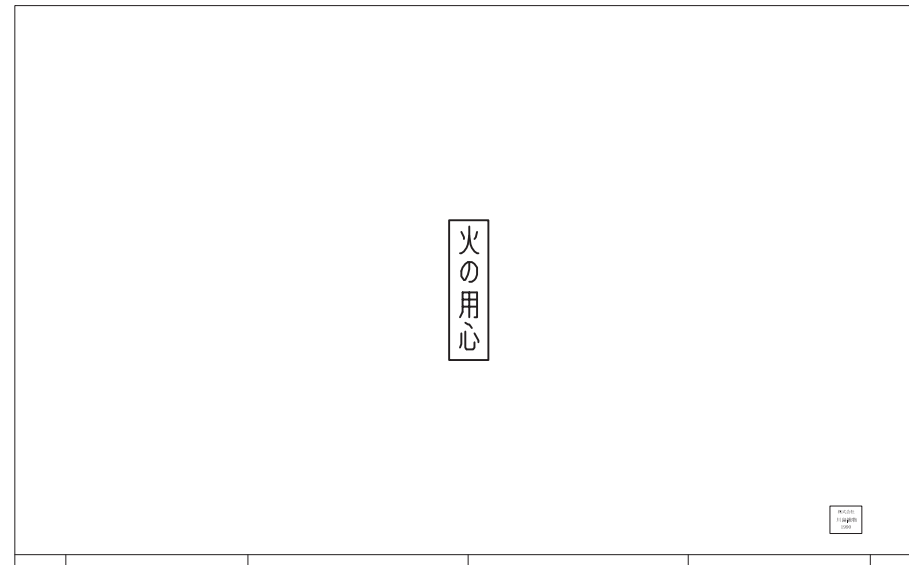


宝くじ

株式会社
日経出版
1990

「宝くじの」現物は左右反転
裏地交換後は「宝くじ」の周囲を切り残し、上から新しい裏地を取付

緞帳 裏地 交換後



火の用心

株式会社
川島建設
1290